

建築士 やまなし

No.87

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



一般公募記事より

上段写真「御師町の暮らしを支えた商家」
下段写真「教会建築への誘い」

● 目次 ●

日本建築士会連合会長表彰を授彰して

甲府支部 金井 一憲…………… 2

日本建築士会連合会長表彰を授彰して

甲府支部 田邊 佳子…………… 2

ワークショップを開催して 青年部会部長 齋藤 啓文…………… 3

県民の日記念行事への出展

北富士支部青年部 荒井 剛将…………… 3

令和6年度「建築士の仕事講座」について

甲府支部青年部 中澤 雄…………… 4

第66回建築士会全国大会「鹿児島大会」に参加して

北富士支部 白壁 竜次…………… 4

建築士会全国大会に参加して 女性部会 小笠原千秋…………… 5

鹿児島を訪れて 女性部会 武井 伸江…………… 5

御師町の暮らしを支えた商家 中巨摩支部 名取 政明…………… 6・7

教会建築への誘い 甲府支部 仙洞田安宏…………… 8・9

第57回親睦スポーツ大会に寄せて

都留支部支部長 山口 清一…………… 10

令和6年度山梨県地震防災訓練(身延支部被災建築物応急危険度判定訓練)

事務局…………… 10

県からのお知らせ…………… 11

会員の動静…………… 11

編集後記…………… 12

日本建築士会連合会長表彰を授彰して



甲府支部
金井 一憲

この度、日本建築士会連合会長表彰を賜り光栄に存じます。長田建築士会会長をはじめ、諸先輩方、事務局の皆様には心より感謝申し上げます。

私は、毎年各地で開催される全国大会を楽しみにしています。厳粛な式典はもちろん、その地の街並みを散策することが目的のひとつとなっています。活気に満ちた街づくりの中に歴史観を垣間見る絶妙な空間には毎回驚かされております。

幼少期から父の手を握りながら建築現場をよく見に行っていました。建前（上棟式）があると手一杯に餅やお菓子を貰い喜び、近所の方々を招待し、地域ぐるみで祝いをしてきたことを憶えています。その土地の歴史、風習を重んじ、使う人たちの気持ちを掴み取り、新しい門出を見守りながら、ふたつとない建築物を手掛けられることは大変ありがたいことだと、父から教わりました。

建築は技術の集大成です。時代に合わせて変化しながら成長しています。また、完璧なもの一つありません。常に取捨選択の連続であり、失敗をすると同じ失敗をしないように努力します。それが経験であり、多くの経験を積んだ先輩方には敵わないと思います。そんな私にとって建築士会は、多くの先輩方と出会い、会話を通じて情報交換をすることができ、知識や技術を伝承するためには欠かせない組織だと思います。

年々、建築士試験を受験する若者が減少している中、青年部の活動や建築士の集い等を通じて、建築の楽しさ、奥深さ、やりがいを感じ、建築士を目指す若者が増えることを願っています。

今回の授彰を機に、今後とも微力ながら精一杯努力して参りますので、変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、建築士会の益々の発展と会長並びに会員皆様のご健勝をお祈りし、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

日本建築士会連合会長表彰を授彰して

この度、日本建築士会連合会長表彰を賜り、長田建築士会会長をはじめ事務局の皆様、多くの諸先輩方、これまで私を支えてくださった皆様にお礼と感謝を申し上げます。

私が建築士会に入会したのは、30年ほど前になります。設計事務所に就職したばかりで時間に追われる毎日でしたが、女性部会の先輩から「夜、女性部の方が講師になって勉強会をしているから参加してみないか」と誘っていただきました。少し緊張しながら行ってみると皆さん気軽に声をかけてくださり、木造の構造について基本的な考え方から応用計算まで細かく教えてもらいました。仕事を終えてからの時間をとても有意義に過ごすことができ、士会の活動に参加するきっかけをいただきました。当時よく通った甲府北公民館の前を通ると懐かしさと同時に自分が目標としていた建築士に近づけているかなと思いつつ、何歳になっても学ぶ気持ちを忘れず成長していきたいと感じます。

学校を卒業してから現在に至るまで建築の仕事が続けていますが、産休・育休の環境がまだまだ整っていない頃、思うように仕事の時間が取れず、焦る気持ちと周りから取り残されていくような不安を感じる時期がありました。しかし建築士会の活動に参加することで新しい情報を得ることができ、経験豊富な先輩方から温かいアドバイスを頂き乗り越えることができました。次男がお腹にいる時には資格取得を目標にして思い切って仕事を休み、一級建築士試験に合格することができました。その後独立し、木造住宅の設計を中心に仕事をしています。建築主一人一人の住まい方や要望に沿えるように打合せを重ね、完成時には笑顔で喜んでもらえるよう取り組んでいます。大切な時間を過ごす家造りに関わることができ、仕事にやりがいを感じ、幸せに思っております。

微力ではございますがこれからも建築士会の活動に参加しながら、夢をもって建築士の道に進む後輩たちに恩返しができるように精進してまいります。



甲府支部
田邊 佳子

青年部会部長
齋藤 啓文

長坂小学校から3年生の親子学習会で、新聞紙エアドームづくりのワークショップをしてほしいと依頼があり、実施してきました。

近年、新聞紙エアドームづくりは実施していなかったため、講師として担当する所属メンバーもほぼ経験がなく、不安だらけでしたが、先輩方からアドバイスをもらいながら、下見に行ったり、折り紙で試作したり、準備を進めて当日を迎えました。

対象となったのは、3年生60人とその保護者、合計120人です。

はじめに建築士の仕事の内容や、建築士が新聞紙エアドームを作りきた理由を説明し、作り方をレクチャーしてから、3クラスに分かれて製作に入りました。

みんなで協力して新聞紙を貼り合わせ大きな部材をつくり、それらを折り込んでから膨らませる、まるで大きな折り紙をしているようで、とても楽しく作業をしてくれました。

ドームが膨れ上がると子供たちは大興奮。ドームに入ったり出たり、中でとびまわったり、大はしゃぎでした。最後はみんなでドームの中から新聞紙を突き破って解体し、片付けをして終了しました。

児童たちからは、「想像していたものより大きなドームを作れて楽しかった。」「スタートから最後の壊すところまで楽しめて良かった!」などの感想をいただきました。また、保護者の方々からは、「建築とドームが結びついてとても興味深かったです。」「作る段階で立体的になることがワクワクできて良かった。カウントダウンをしたり、空気が入って膨らむときのこどもたちの表情がとても良かった。」といった肯定的な意見が数多く寄せられました。

短い時間ではありましたが、大変有意義な時間にする事ができました。今回参加してくれた児童の中から、一人でも建築士を目指す人が出てきたらうれしいです。



北富士支部青年部
荒井 剛将

昨年度に引き続き、県民の日記念行事が開催され、青年部は10月5日(土)富士吉田会場、11/17日(日)小瀬会場の2会場にて子供たちを対象に「ストローハウス」を体験してもらう出展ブースを設けました。

この「ストローハウス」は、色とりどりのストローをゼムクリップでつなぎ合わせることで、様々な形状を作りだすものです。ストローハウスの名の通り、家の形を基本形とし、他にもピラミッドの形、タワーや星形(平面形状)など様々なものを作ることができます。

まず、ゼムクリップを使ったストローのつなぎ方など基本的な作り方を教えた後、筋かいを用いたり、トラス形状にすることで、安定した構造物になることを学んでもらいます。

後は子供たちが、自由な色使いで、手順もさまざまに完成を想像しながら作成していきます。小さな子供でも少し手伝ってあげればストローハウスは完成します。手を動かし、立体を組み、変形しないように筋かいを入れ、手が止まった時は見本を見ながら、次のパーツを考え…そうして完成させた子供たちの達成感を見ると、建築の入口としてとても楽しい体験の一つだったと思います。



子どもの興味を深めるには、楽しみながら学べる環境を作ることが大切です。今回のイベントでは、子どもたちが建築に興味を持つきっかけや実際に体験できる機会を少しでも提供できたかと思えます。

ご協力頂きました建築士会の方々にお礼を申し上げ報告とさせていただきます。

甲府支部青年部

中澤 雄一

9月26日に笛吹市立春日居中学校2年生を対象とした「建築士の仕事講座」を行いました。本講座は、中学生が地元で働く社会人から直接話を聞く職業講和の位置づけとして開催されており、今後の進路や将来の職業について考えるための契機とするものです。青年部では、未来の建築士を増やす重要な活動ととらえ、近年積極的に開催しています。本年度は、青年部を主体とした14名のメンバーが参加しました。



「建築士の仕事講座」は2部構成からなっており、1部では建築士とはどのような仕事か・どうすれば建築士になれるか、などをテーマに座学を行い、2部では演習課題を使った作図やプランニングを行います。今回の演習課題は建築士製図試験と同様、与えられた敷地条件や所要室を満足するよう、プランニングから作図まで行うものとなりました。テーマは「私の家(理想の住まい)」です。建築に携わったことのない中学生には、初見で課題に取り組むことはハードルが高いと判断し、事前に課題発表を行い、「どのような家に住みたいか」、「どのような家族構成にするか」などを考えてきてもらいました。

また、特別支援学級の生徒には、マンションの一室を自由にプランニングする課題を用意しました。

約2時間の講座はあっという間に終わりました。講座の構成では、2部の作図・プランニングに多くの時間を割くこととしましたが、はじめての経験に生徒の多くは手が進まず、時間が不足する様子でした。それでもなんとか作図まで完成させた生徒には、その内容を発表してもらい、拍手で講座を終えました。

講座終了後のアンケートを読むまでは、今回の講座が生徒たちにとって有意義な時間だったのか不安でしたが、アンケート結果では「建築士に興味をもった」「設計は難しかったが楽しかった」「建築士になりたい」などの好意的な意見が多くみられ、ほっと安堵し、また、次回への励みとなりました。

今回の経験を踏まえ、次年度以降も未来の建築士を増やすべく、青年部のメンバーと活動していきたいと思えます。

北富士支部

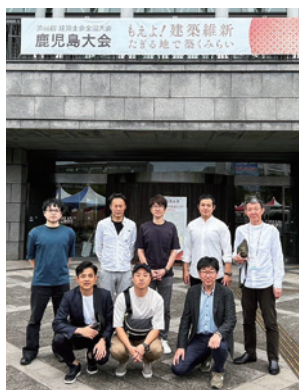
白壁 竜次

第66回建築士会全国大会「鹿児島大会」～もえよ！建築維新 たぎる地で築くみらい～が、令和6年10月24日から26日までの3日間、鹿児島市の宝山ホールをメイン会場として開催されました。

建築士会へ入って間もない私ですが、今回、初めて全国大会へ参加いたしました。

24日は、全国建築士フォーラムが催されました。まずは「建築については詳しく知らないが、地元の鹿児島を知る建築学生」と「他県から来た、鹿児島を知らないが建築を生業としている我々(建築士)」の組み合わせで、「今」と「昔」が共存している街並みを歩き見て、鹿児島市街の歴史や文化、魅力を共有しました。そして、その後のグループワークでは、鹿児島の良い点や改善点などを学生たちと共同発表しました。

25日の青年委員会セッションでは、地域実践活動発表会がおこなわれました。全国の各地域ブロックから選ばれた青年委員会の活動は、各々が「みらいの建築業界のため、建築士の魅力を発信してみらいの建築士を増やすこと」「みらいへ繋ぐためのまちづくり」などを共通のテーマとし、知恵を出し、切磋琢磨していました。



私たちの仕事は「みらい」を見据えたまちづくりはもちろん、その志を同じくする後進を発見し、育むことだと考えています。そのような同志を集めるためには自分が「燃える」事、そして周囲にその熱を伝えられる人材でなければならないと感じました。

山梨県建築士会に目を転ざると、皆が集った大懇親会は、まさに「自燃型」のパワー溢れる先輩会員の集まりでした。新参者の私を温かく受け入れていただき、杯を頂けたことは最高の思い出です。この人たちとなら山梨を盛り上げ、建築士会を盛り上げることができると確信しました。

最後に、今回の全国大会では、建築士の諸先輩方と行動を共にすることで、たくさんの気付きを得る事ができました。あっという間の3日間でしたが、この貴重な経験を活かし、これからの活動に貢献したいと思います。

女性部会
小笠原 千秋

鹿児島大会記念フォーラム「建築維新ではじまる未来」における林望、後藤一真、大西麻貴三氏のレクチャーで私の心に残ったことを記したいと思います。それは鹿児島の廃仏毀釈による文化の破壊から始まり、維新という言葉を再考する機会となりました。

林氏は、「建築は風景の記憶装置であり歴史の証人である。古いものを壊すのは先祖が見ていた景色を消してしまうこと。イギリスではシャーロックホームズツアーが存在するが、建物が残らない日本では銭形平次ツアーはできない。」という作家らしい視点を紹介されました。「建築はテクノロジーの成果であり、アートである。建築を腐敗と発酵で考えてみると、養生し活用していくのが本当の意味での建築士ではないか。」という持論も展開されました。



後藤氏は、近い未来に備えてと題し、エンジニアとしての事例の紹介がありました。3Dプリンターの仕事は縄文土器の工程を連想させ、まさに昔が今につながっているということ、テクノロジーが人間の巧みに追いつけるようになることが技術革新である、等々が話題になりました。

大西氏は、「愛される建築」というキーワードで、鹿児島の郷中教育の施設にも触れながら、「グローバルな時代をもってしても建築はある固有の土地に建つものであり、風景に応答するもの、残したい建築だと思うかどうか」と云う建築家としての信条を、難しい建築論ではなく適切で驚くほど易しい言葉を使い話されました。大西氏の仕事の姿勢が垣間見え、こころときめく最高のフォーラムとなりました。

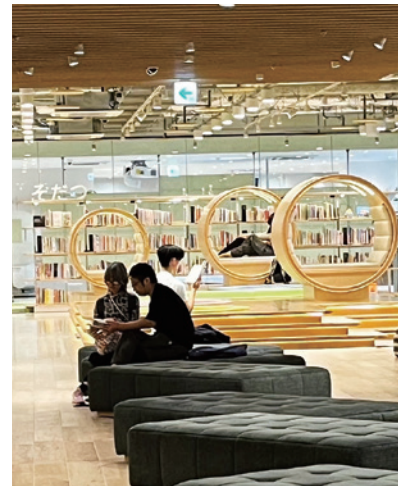
女性部会
武井 伸江

鹿児島の文化と建物には、薩摩藩の歴史や地理的特性が色濃く反映されており、伝統・自然・近代的な要素が巧みに融合していました。代表的な歴史的建築物のひとつに仙巖園があります。1658年に島津家の別邸として造られ、桜島を借景とする壮大な景観が魅力で、日本建築と中国風建築が融合した特徴的な御殿があり、島津家の居住空間、江戸時代の文化を反映した茶室がとても素敵でした。また、尚古集成館は、明治時代の産業遺産として世界文化遺産に登録されていて、薩摩藩の歴史や産業の発展過程が展示物で詳しく知ることができました。その近くでは近代と歴史が調和したスターバックスコーヒー店がありました。このお店は旧薩摩藩主・島津家ゆかりの登録有形文化財「旧芹ヶ野島津家金山鉱業事業所」をリノベーションして活用した、和風の瓦屋根と洋風の連続アーチが特徴の2階建て木造建築で、店内の照明等に鹿児島の伝統工芸である薩摩切子が入り入れられ、歴史的建造物と現代が融合された素晴らしい空間を生み出していました。

最後に市街地に位置する鹿児島市立図書館(天文館分館)をご紹介します。ショッピングモールの中に配置され、ちょっとした合間にも立ち寄りやすい場所で小さな子どもからお年寄りまでが楽しみながら勉強や調べもの、読書ができるスペースがありました。こんな図書館が山梨にもあったら素敵だなと思える空間でした。



スターバックス



鹿児島市立図書館



御師町の暮らしを支えた商家

中巨摩支部 名取 政明

富士吉田市の上吉田地域は、富士山信仰の北面登拝の拠点集落として、江戸時代より富士講で栄えた御師の町という特徴を持っています。富士山世界文化遺産の構成資産でもある重要文化財の旧外川家住宅・小佐野家住宅をはじめ、御師の家や上吉田を中心とした地域住民の暮らしを支えてきた商家の山田屋商店は、令和4年(2022)にリノベーションされ、翌年に日本酒専門店としてリニューアルオープンしました。

歴史ある上吉田

上吉田は、室町時代末期、焼失した西念寺の再建と、度重なる富士山の雪代(融雪雪崩)の災害を避けるため、古吉田の地から元亀3年(1572)に集落ごと移転しました。写真1は、その時の町割りや屋敷地割りが現在も残っています。(出典:参考文献1)写真の上が南側で富士山を望み、下が北側で金鳥居があり、富士山の裾野の傾斜地に町が広がっています。町は街道(富士山道/谷村路/国道139号)沿いに南北に構成されており、短冊状地割りが並ぶ両側町です。街道に沿った前屋敷の町家と、その間を通る引込み路「タツミチ(立道/龍道)」の奥に立地する御師の家(黄色)が特徴的です。



写真1

山田屋商店の来歴

山田屋商店は、米穀、酒類、肥料、飼料、固形燃料(練炭、木炭など)、一般食料品など多岐にわたる商売を営み、江戸時代から近年にかけて、御師の家や富士山の山小屋、地域住民の暮らしを支えてきました。しかし、社会環境の変化などにより、15年ほど前から小売店舗は休業状態となっていました。休業の間、商家が劣化していく姿を見守る中で「当家の始まりは、この商家にあり」と考えたご当主が、商家の解体ではなく再生を決断しました。

リビングヘリテージ「生きている遺産」

歴史的建築物の再生には、保存・活用・継承の三つが一体となっていることが重要です。保存は歴史的価値を損なうことなく長く残すこと、活用は新たな役割を与えて地域や社会に貢献すること、継承は価値を次世代に伝えていくことです。一度失われたものは二度と回復できません。当商家は、地域にとっても貴重な歴史的文化的遺産

といえます。従来の「歴史を凍結させた単なる史料」や「博物館化された遺産」の保存管理とは異なり、「生きている遺産」として人々の生活の中で利用され継承されていくように、以下のような取り組みを行いました。

- 当商家の歴史的調査を行い、その価値を明確化
- 耐震改修や修復を含む適切な保存工事
- 新たな用途・機能の検討と活用促進
- 調査結果を地域・世界と共有し、価値を発信
- 改変不可・取替え可の部分を記録し、価値の継承を図る
- 歴史的資料を備え、未来に向けた物語を綴る

建築年代の特定

解体時に詳細な調査を実施しましたが、建築年代が明確に示された棟札や墨書き、文書などは発見できませんでした。改変のない当初材には全て和釘が使われており、後に改造した部分にのみに洋釘が使われていたことから、明治中期を下ることはなく、材の仕上げや風蝕具合、内法や階高の高さなどから判断すると、江戸中期まで遡ることもない。文久年間(1861~1864)に本家から屋号を譲り受けていることから、当家口伝による文久3年(1863)の建築が妥当だと考えられます。

上町(上宿)の表通り

写真2は、明治41年(1908)に撮影された上吉田の上部に位置する上町(上宿)の様子です。(出典:参考文献2)石置



写真2

き板葺きの切妻屋根に下屋を差し掛けた町家が並び、街道の中央には都留馬車鉄道の軌道が見られます。軌道は別として、江戸時代から明治時代にかけてこのような町並みが続いていたと推測されます。山田屋商店は写真の右奥に位置していますが、手前の町家に隠れて確認できません。

看板建築

写真3は、昭和30年代の大改装後の様子です。差し掛けの下屋と切妻屋根のケラバが撤去され、前面に奥行き5尺の看板建築が取り付けられています。



写真3

工事着手前の状況

写真4は、令和2年(2020)に初めて現場を視察した際の様子です。店舗は長年休業状態であり、建物は劣化していました。



写真 4

解体工事

写真5は、屋根のスノコ状の野地板と垂木を残し、一部の板壁と柱・梁など軸組を残して撤去解体しました。バッサリと切り取られたケラバや補強の柱が見られ、痛々しく感じます。



写真 5

曳家

写真6は、コンクリート基礎を新設するために曳家を行いました。短冊状の敷地のため、一旦後ろに建物を曳くスペースを確保することができました。



写真 6

模様

写真7は、店舗再開にあたり前面駐車場を設置するために、建物を現況から約5メートル後方の位置に曳き戻し、角度を微調整して配置しました。



写真 7

完成外観

写真8は、既存店舗が街道に向けて全面開放されていたため、両側に耐力壁を設置し耐震性を向上させました。実測調査時に見つかった痕跡を参考にして、妻面に出窓を設けました。



写真 8

完成内観

写真9は、昭和30年代の大改装で内部は新建材で覆われてしまい、小屋梁が隠れて見えなくなっていました。解体が進むと、大径材のアカマツ梁が5段に組まれた社寺建築を思わせる豪壮な梁組が現れました。写真10は、山田屋商店最大の見所といえます。



写真 9



写真 10

再生への思い

上吉田の歴史は450年を超え、築160年の山田屋商店が再び蘇りました。ご当主の誇りと、ご家族による日本酒専門店としての再開がきっかけで商家を再生することになりました。初めて現場を見た際には正直に申し上げて「お金を掛けてまで直す価値があるのか」と思いました。調査をするために屋根裏に上がり、黒く煤けた野地板や垂木と、真っ暗な中、わずかに見えた異様なまでの存在感を発する小屋梁が、再生の可能性を感じさせました。「これは再生する価値がある」と確信し、ご当主に提案して取り組みが始まりました。解体中、大きな梁組が現れた瞬間の感動は今も心に残っています。

最後に

上吉田は開発や発展が進み、かつての町並みを失いつつあります。しかし、歯抜けのようになった現在でもわずかですが古い町家や御師の家が残っており、歴史的な景観を形成しています。山田屋商店のリノベーションを通して、改装され見過ごしてしまうような古民家にも歴史的文化的な価値があることを地元の方々に気づいていただけたら、これ以上の喜びはありません。初見の時に、一目見た印象で「再生せずに取り壊したほうがいいですよ」と安易に言わなくて本当に良かったと思います。山梨県内には、長い歴史を積み重ねてきた地域固有の名もなき建物が多く残されており、その価値に気づかれず、注目もされていないままです。これからも、地域の歴史や文化を未来へとつなぐ地道な活動に取り組み、価値ある建物を一つでも多く次世代へと引き継いでいきたいと考えています。

参考文献

- 1 「富士吉田の富士山信仰用具調査報告書」富士吉田市教育委員会
- 2 「山梨県立富士山世界遺産センター 研究紀要 第2集2018」山梨県立富士山世界遺産センター
- 3 「富士山吉田口御師の住まいと暮らし」富士吉田市教育委員会



教会建築への誘い

甲府支部 仙洞田 安宏

■ 甲府カトリック教会との出会い

甲府市中央2丁目の街角に、ひっそりと建つ教会堂がある。甲府カトリック教会、第二次世界大戦の甲府空襲も潜り抜けた1925年(大正14)築の教会堂だ。

私がこの教会堂と出会ったのは2005年9月、知人からこの教会堂の取り壊しの話があるという情報を聞いたからだ。建築の専門外の知人は、『素人の自分が見ても取り壊すのは勿体無い建物だと思うのだが』と言って、一度見てもらえないかと言う。この教会堂は日本建築学会編纂の「日本近代建築総覧」にも掲載がなく、私もその存在を知らなかったので早速訪ねてみた。



甲府カトリック教会聖堂



甲府カトリック教会聖堂内部

教会堂の隣の事務所にいた婦人に、訪問の趣旨を告げ見学させてもらう。外壁はモルタルの洗い出し仕上げで柱の位置にバツレスが付けられており、内部は単廊形式で北側に半円形の後陣(アプス)が配置されている。その部分に6人の聖人が祀られており、その中に袴姿の武士の像があった。肥前出身のトマス籠手田(こてだ)という方で、キリシタン弾圧で殉教した人物とのこと。6人の聖像は昭和3年に設置されたが、当時のフランス人神父の思い出があったと思われる。聖像の間にはステンドグラスが嵌められたアーチ窓がある。天井は格天井で柵目に文様が描かれてある。床は当初は畳敷きだったそうだ。率直な感想は「甲府にもまだこんな教会が残っていたのか。まさに知られざる文化財ではないか」という思いだった。

事務所でコーヒーを頂きながら、この教会について話を伺うと、「山梨県カトリック宣教百年誌-風に聴く-」という書籍を見せてくれた。その中に、1925(大正14)年11月29日献堂式という記述があった。取り壊しの話があるのは事実で、意気消沈して教会堂をあとにした。

■ まちかどの近代建築写真展

この教会堂をどうにか守る術はないものかと思案して、思いついたのが写真展であった。その数年前から全国の近代建築愛好家仲間の情報交換の場であるメーリングリストに加わっていて、2004年から有志で「まちかどの近代建築写真展」を各地で開いていた。身近に残る近代建築に関心を寄せてもらおうという趣旨である。第1回は、北海道大学で開催された日本建築学会の大会に合わせて、札幌駅のコンコースで各都道府県の近代建築写真を展示した。

この写真展を利用して、全国に残る教会建築の写真を展示することはできないかとメーリングリストの仲間に呼びかけた。一方、教会の神父さんに写真展開催を掛け合うと、『教会堂が献堂80年になるので、記念事業としてやりましょう。会場は幼稚園があった時代に使っていた講堂が奥にあるので』という返事が返ってきた。

かくして、写真展の準備が始まった。週末になると教会建築以外にも山梨県内に残る近代建築を撮り歩いた。そして、2006年4月、「まちかどの近代建築写真展in甲府」を開催した。日曜日になるとミサに参列した信者さんたちが写真展を見にきてくれた。写真展が終わる頃、一人の信者さんから『写真展を見て、自分達の教会がこんなに立派だったのかと信者の多くが言っている。お陰で、皆がやっこの会堂を残すように考えが変わって来た。』と言われた。あれから20年近く経つが、教会堂は耐震補強をして今も静かに佇んでいる。

なお、この「まちかどの近代建築写真展」は、2011年から甲府駅北口広場にある藤村記念館で、毎年テーマを変えて開催しており、全国では通算100回を超えるまでになった。

■山梨の教会

元々若い頃から近代建築には関心があったが、カトリック教会での写真展を機に、山梨県内に残る教会建築にも関心を持つようになった。県内の教会の一部を紹介すると、

- ① 日本基督教団市川教会（市川三郷町・明治30年）、県内に現存するキリスト教の教会としては最古の擬洋風建築、国登録有形文化財。
- ② 日本基督教団富士吉田教会（富士吉田市下吉田・昭和2年）
- ③ 清里聖アンデレ教会（北杜市高根町清里・昭和23年）
- ④ 日本聖公会長坂聖マリア教会（北杜市長坂町・昭和37年）、③④の二つは、同じ教派、また場所が近いということから構成が似ており、同じ設計者かも知れない。礼拝堂内部は畳敷きである。
- ⑤ 日本福音ルーテル甲府教会（甲府市青沼・昭和30年）
- ⑥ カトリック山城教会（甲府市小瀬町・昭和36年）、山梨へのカトリックの宣教は明治11年に山城へが最初で、初代の教会は明治17年献堂であったが、伊勢湾台風で被害を受けた。

■内藤多仲と教会

山梨出身の「塔博士」内藤多仲博士が構造設計に関わった教会を紹介する。

- ⑦ 日本基督教団早稲田教会（東京都新宿区・大正10年）、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計と言われてきたが、最近の研究で今井兼次と内藤多仲の共同設計と考えられているようだ。
- ⑧ 世界平和記念聖堂（広島県広島市・昭和29年）、設計は村野藤吾、2006年、戦後建築として初めて国指定重要文化財となった。
- ⑨ 山梨英和のグリーンバンクチャペル（甲府市愛宕町・昭和24年・登録文化財）は内藤に師事した塩川旭による設計である。

以上、山梨の教会建築を中心に述べてきたが、他の近代建築と異なり、教会は現役のまま使われていることが多い。宗教の持つ普遍性の所因かもしれない。旅に出た時、その土地の教会を訪ねてみるのも良いだろう。私自身はクリスチャンではないが、教会の静謐な空間に身を置くと、心が清められる思いである。

（撮影はすべて筆者）



①日本基督教団市川教会



②日本基督教団富士吉田教会



③清里聖アンデレ教会



④日本聖公会長坂聖マリア教会



⑦日本基督教団早稲田教会



⑥カトリック山城教会

第57回親睦スポーツ大会に寄せて

都留支部
支部長 山口 清一

ここ数年 秋は公私とも建築士会関連の行事で充実（疲労？）しています。

第57回親睦スポーツ大会は都留支部が運営を担いました。雨天の心配をよそに当日は青空のもと 県内各支部から大勢の会員に参加していただき無事に開催することができました。建築士会本会、事務局、各支部の方々のご協力に感謝を申し上げます。

私事になりますが スポーツ大会の次の週は鹿児島県建築士会全国大会に参加研修、次の週は山梨県建築士会の有志のふれあいツーリングクラブの本州最西端・四国建築研修ツーリングに参加しました。やれやれと思っていたところに、この原稿依頼を承ったところです。

都留支部が運営担当をする親睦スポーツ大会に係るのは今回を含めて3回目になります。1回目は競技種目がソフトボールからグラウンドゴルフに変わって2年目だったと思います。前年運営の大月支部からメンバー表のプログラムシートを引き継ぎ、当時の志村都留支部長の会社事務所で都留支部青年部の皆で参加メンバーを入力したことを覚えています。2回目は渡辺支部長（建築士会副会長）の元、運営に参加しました。1回目から二十年が経ち、その間 青年部の関プロ山梨河口湖大会の運営にも参加し打ち上げ会の時には青年部の皆と感動し涙したことを覚えています。そのような活動の中、有志で前述のツーリングクラブもでき参加することで多くの方々とのつながりを持つことができました。

30年程前、建築設計事務所を始める時に自分が知っている人は誰もいない建築士会に思い切って入会し、会の方とのつながりを通して刺激を受け、共感し、学んだことは今の自分にとってとても大切なものです。

今回、新しい若い顔ぶれが親睦スポーツ大会の運営に参加してくれました。各支部にも新しい方が参加され楽しんでいただけたと思います。これからも建築士会の行事への参加を通して未来に向かってよい経験を積み重ねていてもらいたいと思います。

令和7年の運営担当の甲府支部の皆さま よろしくお願いします。

てるてる坊主を吊るして楽しみにしています。



事務局

令和6年度山梨県地震防災訓練 (身延支部 被災建築物応急危険度判定訓練)

11月24日(日)、「山梨県地震防災訓練」が身延町の総合文化会館をメイン会場に開催され、訓練の一環として、建築士会身延支部から藤田支部長様はじめ応急危険度判定士の有資格者の皆様にご参加をいただき、「被災建築物応急危険度判定訓練」が実施されました。

【タブレットを用いた判定訓練の実施】

今回の訓練では、能登半島地震でも採用されたタブレットを用いて判定作業を行った。

- ・タブレット方式では、画面に表示された各判定項目をチェックしていくと、「調査済（緑色）」「要注意（黄色）」「危険（赤色）」の総合結果を自動で判定
- ・各建物の判定データを災害対策本部に送信することで、台帳作成や集計作業に要する労力が軽減



システムを開発した国立研究開発法人建築研究所によると、今後も改良を加えながら普及に努めていきたいとのことです。晩秋の休日にも拘らず、ご参加くださいました身延支部の判定士の皆様、大変お疲れ様でした。

(※ 来年度の訓練は「甲州市」で開催予定です。)

